

DX時代の企業と情報システム～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割とイノベーションを生み出す超上流作法【会場】（4124147）

DX時代の企業と情報システムにおいて大きく2つの視点から学びます。まずは次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割について、企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。次にイノベーションを生み出す超上流作法について、新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

開催日時	2026年10月13日(水) 18:00-17:00会場 2026年10月17日(木) 18:00-17:00会場
カテゴリ	事業戦略策定・事業継続評価 15総務策定・15総務評価・15企画・15企画評価 詳しく見る
講師	Why (伊の巻)
講師	株式会社Smeal 代表取締役 2015年11月に、経営戦略マーケティング、販売までを担当し、基幹システムのグローバル展開から先頭部隊を抜出したA1プロジェクトに参画し、JUSAS活動を通じて、我がビジネスの革新や企業内イノベーション手法を研究、創造的発想によるアイデア構想と論理的思考からの妥当性と実現性検証をメソロジーに落とし込み、DXプロジェクトに対応するフレームワークとしてイノベーション経営カレッジ (SAC) にて公開、出版スタイルの異業種共創プログラム (Challenge Case) として、社名自ら講師デビューへ展開している。
参加費	JUSAS会員(17): 70,000円 一般: 90,000円 (1名様のみ) 消費税込み、テキスト込み) (受講権利複製2枚)
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (1000年創立) スペース212)
対象	IT部門に新たに参画になった方、新入社員～副社長程度の経営社員 詳しく見る
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
受講ポイント	※110名程度が対象のセミナーです。(1時間1ポイント)
IT知識レベル	12

主な内容

■受講形態

会場のみ（オンラインなし）

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

特になし

DX時代の企業と情報システムの関係において大きく2つの視点から学びます。

まずは企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。

次にイノベーションを生み出す超上流へのアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

◆DX時代の企業と情報システム1

～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割

DXという言葉が日常的に聞くようになりましたが、ユーザー企業やその情報部門において、DXとはどのような意味や範囲をさすのでしょうか。

ユーザー企業の経営層やユーザー部門からも最新テクノロジーを活用した業務変革の期待をされるありますが、流行りのAIや高価なパッケージソフトを導入すれば、IT先進企業に生まれ変わるものではありません。

ビジネスとテクノロジーの両側面を理解し、距離（関係性）を埋めるのが情報システム部門（あるいはDX推進部門）の大きな役割です。

従前の経験や勘などではなく、データとアルゴリズムによって、ビジネスの意識決定や課題解決などを行うにはどうしたらよいか。

次世代型のビジネスプロセスエンジニアとしての役割を学びます。

◆DX時代の企業と情報システム2

～イノベーションを生み出す超上流作法

デジタイゼーションとデジタルイゼーション。言葉は似ていますが、意味は大きく異なります。

DXを推進するにあたり、必要なのはデジタイゼーションです。

それでは、これに必要なスキルは何でしょうか。

問題解決や生産性向上のあらゆる場面において、ロジカルシンキング（論理）はビジネスパーソンには当然必要です。

そこにさらに、新しいことを考え出す感性、イノベーションを生む創造力が不可欠になります。

本講座では、ビジネスイノベーションのしくみと新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を手を動かしながら学んでいきます。

■参加者の声

考え方と事例を交えて話していただいたため、とても理解しやすかった。

ビジネスプロセスエンジニアに求められる思考法を、非常にわかりやすく教えてもらえる。

実践したワークも身近なテーマを基にしたものが多く、どんなバックグラウンドを持つ人でも理解しやすい内容と感じた。